

芸術体験ひろば2018

劇場ではない花伝舎だからこその価値

2018年5月5日

会場=芸能花伝舎

主催=芸団協、花伝舎入居15団体、新宿区(文化体験プログラム)

企画協力=実演芸術関係24団体、東京青年会議所新宿区委員会

出店協力=西新宿商店会、西新宿みのり商店会、元淀商店会、東京土建新宿支部淀橋分会

毎年5月5日に開催している芸術体験ひろば。今年も、芸団協会員団体や地域の皆様の協力のもと、幅広い年代の方々に楽しんでいただく計37プログラムを実施しました。

この日、一番小さなお客は、『ベビーミニシアター』にお迎えした、0歳の赤ちゃんたち。音や声、演者の動きに、赤ちゃんたちは瞬間的に反応します。「こんなに集中している顔は初めて見た」と驚く親御さんも。赤ちゃんが日常で芸術的な感覚を養うには、お父さんお母さんの役割はとても重要。プロの演者と過ごしたこの体験が、お家に帰ってからの赤ちゃんとのスキップのヒントになればと願います。

少し年齢が上の子どもたちは、『音でつくる物語ワークショップ』で、プロの舞台音響家と俳優と一緒に朗読劇の創作に挑戦。どこにどんな音を入れるか、一人ひとりの感性が際立つ一回限りの上演。真剣な顔が印象的でした。舞台音響家という表からは見えない仕事に、子どもたちも魅せられたようです。

芸術体験ひろばは、ステージで上演するだけではない実演芸術の魅力を、様々な形で子どもたちへ伝える場。子どもたちのいろんな表情から、あらためてその価値を再確認しました。



ベビーミニシアター「マ・ブニュ・ンカ!」

終演後には珍しい楽器に赤ちゃんたちも飛びついていました



「音でつくる物語ワークショップ」
グラスハーブで即興的につくる響きも
朗読のアクセントに



地元商店会の皆さんによる出店で、校庭も大にぎわい